

事業評価調書（新規）

事務所名 (課名)	水産課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	水産課長 藤澤 崇夫 (課長補佐兼漁場整備係長) (高木 英男)	内線	4149 (4163)
--------------	-----	---------------------	--	----	----------------

事業種目	漁場整備開発	事業名	事業区間	総事業費		4億円
		増殖場造成事業	淡路西浦一宮地区	内地補償費	一億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
淡路市一宮地先				H22	H23	H25
事業目的			事業内容			
<p>当地区では、水産業が重要産業であるが、近年の漁業生産は減少傾向で、かつ変動が大きいため漁業経営は厳しい状況にある。また、冬場のノリ養殖業も色落ち等により生産が不安定な状況が続いている。</p> <p>そこで水産資源を回復させ、漁業生産の維持増大を図ることが最重要課題である。</p> <p>このため、水産生物の生息に極めて重要な環境である浅場において、藻場や磯を創出して水産資源の回復を図り、漁業経営の安定に資する。</p>			<p>対象生物：マコガレイ、メバル、カサゴ、スズキ、マダイ等</p> <p>事業量：40ha</p> <p>事業主体：兵庫県</p> <p>事業費内訳：国：1/2、県：1/2</p>			
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性		<p>当地区において、水産資源の回復を図ることが重要課題である。</p> <p>当地区の前浜は、磯や藻場が広範囲に広がる漁場であったが、これら水産生物の育成に必要な不可欠な環境が大きく減少し、海の生産力が減少していると考えられる。</p> <p>このため、本事業では、水産生物の育成にとって非常に重要な浅場の環境を藻場や磯を創出することにより改善し、幼稚魚の生残率の向上、育成の促進を図ることにより、かつての漁獲を取り戻すことを目的としている。</p> <p>地元からも強い要望があり、関係漁業者の期待が極めて大きい。</p> <p>そこで、本事業の実施に併せて、関係漁業者の資源管理の取り組みを進め、資源培養型水産業を推進することで、より効果的な事業推進が可能となり、水産業の振興はもとより、県民への安全安心で新鮮な水産物の安定供給を図ることができる。</p> <p>以上のことから、事業の必要性は高いと判断される。</p>				
(2) 有効性・効率性		<p>本事業により約57トンの生産増大を見込んでいる。</p> <p>水産物の増産や漁家所得の増加、流通過程での効用見込みから算定した費用便益比（B/C）は1.49と1以上で、事業の有効性は高いと判断される。</p> <p>地元漁業者、地域自治体の期待も大きく、漁協、自治体の事業実施に関する協力も得られる。</p>				
(3) 環境適合性		<p>増殖場造成で藻場が造成されるなどによって、対象魚類だけでなく生息する生物の種類や量の増加が図られ、周辺海域の環境創造が期待される。</p>				
(4) 優先性		<p>事業の実施により、水産資源が回復され漁家所得の増大が見込まれるとともに、本事業の効果は、本県播磨灘海域の広範に波及され、県全体の水産資源回復につながるため、優先性は高いと判断される。</p>				

増殖場造成事業(淡路西浦一宮地区)

事業概要

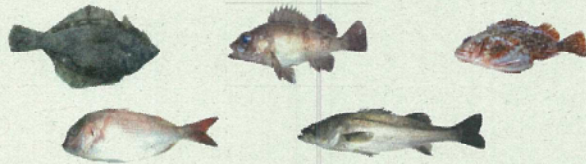
1. 事業の目的

- ・ 失われた海の浅場機能の回復(藻場や浅場の磯)
- ・ 水産生物の資源増大と漁業生産の増大と安定

2. 事業の内容

- ①実施地区: 兵庫県淡路市江井地先
- ②実施年度: 平成23年度～平成25年度
- ③総事業費: 4億円
- ④施設規模: 40ha
(自然石、コンクリート魚礁、鋼製礁)
- ⑤増産期待量: 57トン
- ⑥費用対効果: 1.49

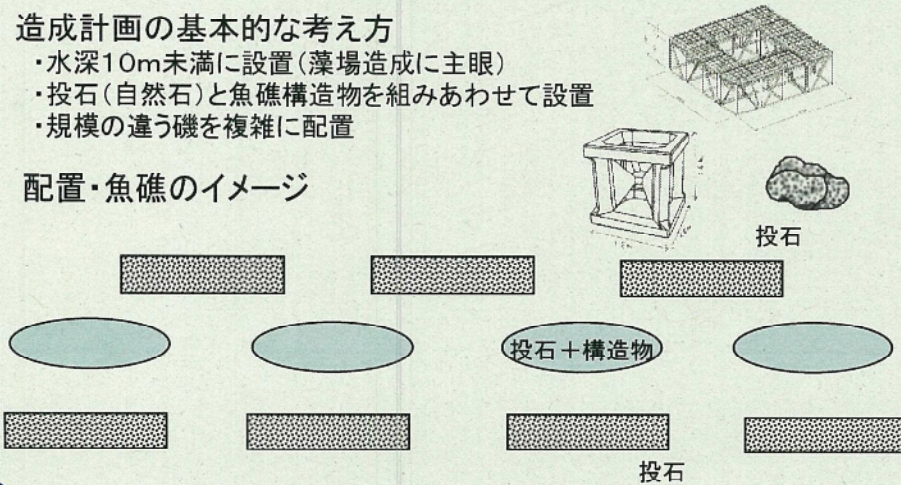
対象魚種: マコガレイ、メバル、カサゴ、マダイ、スズキ等



造成計画の基本的な考え方

- ・ 水深10m未満に設置(藻場造成に主眼)
- ・ 投石(自然石)と魚礁構造物を組みあわせて設置
- ・ 規模の違う磯を複雑に配置

配置・魚礁のイメージ



期待される効果

①藻場や浅場の磯の造成(写真はイメージ)

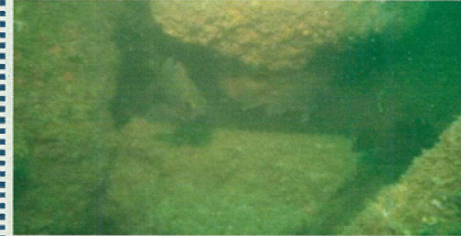


投石に着生したワカメ



投石による磯の造成

②幼稚魚、未成魚の保護・育成による資源の増大

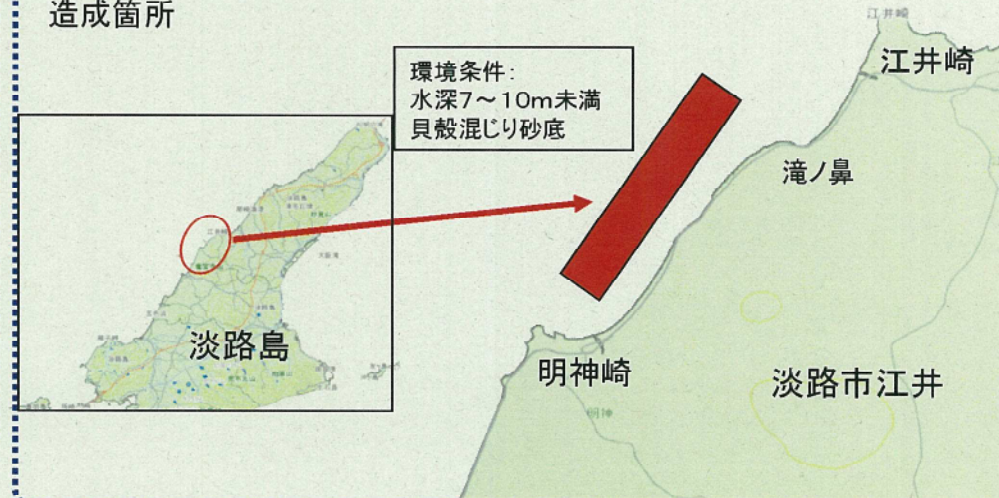


磯の隙間にいるメバル



構造物の内部に蟠集するメバル

造成箇所



工程表

	H21	H22	H23	H24	H25
計画策定					
増殖場造成					

B/C根拠説明資料

便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
漁場	①漁獲量増大による便益 増殖場造成海域で成育した対象魚種の漁獲量・金額	増殖場の単位面積当たりの対象魚種の生産量×造成規模(ha)
	②流通量の増大による便益 流通過程における付加価値効果	(消費地価格－産地市場価格)×流通量

費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
漁場	一宮地区増殖場 造成事業	①漁獲増による便益	28	漁獲量の増＝ 流通量の増 40トン(年間)	368	400	0	1.49
		②流通量増による便益	7					
		計 (総便益額)	35 (550)					

※ 総便益、総費用とも平成22年を基準年として現在価値化した額の分析対象期間中の合計。

※ 社会的割引率は4%、分析対象期間は事業完了後30年。